編者と執筆者の紹介

田中樹（たなか うえる）

総合地球環境学研究所・客員教授、ベトナム・フエ大学名誉教授。専門は、環境農学、土壌学、地域開発論。アフリカやアジアの在来知に学び、人びとの暮らしと資源・生態環境の保全が両立するような技術や生業を創り出す研究に取り組んでいます。

大門碧（だいもん みどり）

京都大学大学院アジア･アフリカ地域研究研究科･特任研究員、北海道大学国際部･特定専門職員。専門は、地域研究、都市人類学。アフリカ都市の暮らしに、エンターテイメントをつくりだす様子からアプローチしてきました。調査地であるウガンダの首都カンパラの人びと、私の家族でもあるウガンダの人びと、そして現在の生活場所であるザンビアの首都ルサカの人びと、みなにいつも私は生かされています。

清水貴夫（しみず たかお）

広島大学教育開発国際協力研究センター、研究員。専門は文化人類学、アフリカ地域研究。アフリカの子ども、特にストリートで生活する子どもやクルアーン学校に通う子どもたちに着目し、西アフリカ社会の諸相を明らかにすることに関心を持っています。

記事への謝辞：この記事は、総合地球環境学研究所「砂漠化をめぐる風と土と人」プロジェクト、および科研費（25770312）の成果の一部です。

石本雄大（いしもと ゆうだい）

青森公立大学・地域研究センター・研究員。専門は、生態人類学、アフリカ地域研究。アフリカ半乾燥地や日本の過疎地域において生業（なりわい）と食の研究に取り組んでいます。

記事への謝辞：フィールド調査では、Kanego 村、Malabali 村、Siachaya 村、Siameja 村、Sianemba 村、Siamvwem 村の方々にお世話になりました。この記事は、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「砂漠化をめぐる風と人と土」および「社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス」、科研費（25871064、26300015）の成果の一部です。

荒木良一（あらき りょういち）

和歌山大学・教育学部・准教授。専門は、植物育種学、植物栄養学。肥料成分の輸送メカニズムや植物の有用成分に焦点を当てた研究に取り組んでいます。

記事への謝辞：この記事は科研費（26300015）の成果の一部です。フィールド調査で出会ったタミルナードゥ州（インド）の人々に感謝します。

桐越仁美（きりこし ひとみ）

東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター・特任研究員。専門は、アフリカ地域研究、地理学、生態人類学。西アフリカの人びとの自然資源利用における協力関係や商業上の信用形成に関する研究に取り組んでいます。
記事への謝辞：フィールド調査では、Dandagoum 村と Kuoli 村のみなさんにお世話になりました。この記事は、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「砂漠化をめぐる風と人と土」、国土地理協会第12回学術研究助成「西アフリカ・サヘル帯における砂漠化問題と在来知識にもとづいた新しい砂漠化防止対策の検討」および科研費（13J02096）の成果の一部です。

町慶彦（まち よしひこ）

NTC インターナショナル株式会社。専門は、農業普及。アフリカ農村部における農業の向上に取り組んでいる。
記事への謝辞：妻の両親、兄弟姉妹や友人には結婚式だけではなく、現地滞在時は多くのことでお世話になりました。また、結婚してから10年近く連れ添ってくれている妻にも大変感謝しております。

神代ちひろ（くましろ ちひろ）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程。専門は、アフリカ地域研究、文化人類学。ブルキナファソの農村において、開発プロジェクトやマイクロファイナンスの利用、自ら金融活動や菜園の経営をおこなう女性グループが、個々人の生活の中でどのような役割を果たしているのかを明らかにする研究に取り組んでいます。

前田菜月（まえだ なつき）

京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻修了。在学中に学内に土づくりの家を建てるゼミに参加。現在は自分のおかれた身のまわりの世界といかに触れ合うのか、色々な試行錯誤をしつつ作品をつくっている。
記事への謝辞：ブルキナファソの壁画に興味を持ち、ブルキナファソを訪ねた際には様々な方にお世話になりました。

渡邊芳倫（わたなべ よしのり）

近畿大学農学部・研究員。専門は、土壌学、環境保全型農業。山から水田までの農地環境から効率的で持続的に利益を得るにはどうしたらよいか？をテーマに、森林や田畑の環境とその管理方法を研究しています。
記事への謝辞：この記事のもととなった調査の際には、ガーナの研究所、政府機関および住民の皆様に大変お世話になりました。

柴田誠（しばた まこと）

京都大学大学院地球環境学堂研究員（2018年３月まで）、新潟食料農業大学助教（2018年４月から）。専門は、土壌学、環境農学、生態系生態学。アフリカ・アジアの熱帯林やそこで行われる農耕活動について農学・生態学的手法を用いて調べています。
記事への謝辞：フィールド調査の際には、Dieudonne さんや Germain さんをはじめ、Andom 村の方々にお世話になりました。この記事は、科研費（13J06387、24228007）および SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム「カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理：地球規模課題と地域住民ニーズとの結合」の成果の一部です。

伊藤千尋（いとう ちひろ）

広島女学院大学国際教養学部国際教養学科・専任講師。専門は、人文地理学、アフリカ地域研究。アフリカにおける都市－農村関係や国内山間部における地域間ネットワークに関する研究に取り組んでいます。
記事への謝辞：フィールド調査では、Lusitu 地区の皆さんにお世話になりました。この記事は、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス」、科研費（26760007）の成果の一部です。

中村亮（なかむら りょう）

福井県里山里海湖研究所･研究員。専門は文化人類学。タンザニア、スーダン、日本の漁民文化を調査研究することで、水域環境保全や人間にとって海とは何かについて探求しています。
記事への謝辞：この記事は、科研費（17K03308、17H01639、17H01678、15H02601）の成果の一部です。

手代木功基（てしろぎ こうき）

摂南大学外国語学部・講師。専門は地理学。アフリカ・日本・モンゴル等で植生景観の変化と自然資源利用の関係に着目した研究に取り組んでいます。
記事への謝辞：ナミビア滞在中は、Renosterkop 村、Onakasino 村の方々に大変お世話になりました。この記事は、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「砂漠化をめぐる風と人と土」、科研費（08J02678、25750118）の成果の一部です。

宮嵜英寿（みやざき ひでとし）

総合地球環境学研究所・外来研究員。専門は、境界農学、環境土壌学。アジアやアフリカにおいて家畜糞尿を介した牧農共存のあり方に関する研究、国内外において雑穀研究、日本の農家レストランに着目した研究活動に取り組んでいます。
記事への謝辞：この記事は、平成26年度総合地球環境学研究所所長裁量若手研究者支援経費の成果の一部です。

Muniandi Jegadeesan（ムニアンディ・ジェガディーサン）

タミル・ナードゥ農業大学・助教。専門は村落開発。インド、タミル・ナードゥ州の農業の変容と生業の多様化に関する研究および伝統的灌漑様式である溜池灌漑に関する研究を行っています。

砂野唯（すなの ゆい）

名古屋大学大学院生命農学研究科リーディング大学院ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成プログラム・特任助教専門は、地域研究、環境学、食文化、醸造学で、アフリカやアジアにおける環境と歴史、食文化のつながりについて研究しています。
記事への謝辞：フィールド調査ではネパール中部のチェパンの方々にお世話になりました。この記事は、科研費（財団法人日本科学協会笹川科学研究助成および15K16188）の成果の一部です。

寺田匡宏（てらだまさひろ）
総合地球環境学研究所・客員准教授。専門は、歴史学、メタヒストリー。歴史や記憶の立場から環境をどう語る（叙述する）かに関心を持っています。